江戸時代から保管されてきた古文書や地図を整理

御舎利町の古文書を解読・発表

帳簿等は細かく記入され、江戸時代は人の出入りの多い町

三年前の二月、御舎利町（大窪五区）で古くから保管されてきた江戸時代からの古文書や地図を整理し「古文書などから知る御舎利町（おしゃりちょう）のあゆみ」と題し、同町会所で展示と説明会が開かれたが、古文書が読める人が少なく、日野町にある、古文書を楽しむ会と古文書の会の二つの会のメンバーに、令和三年七月から令和五年六月にかけ二十回集まってもらい、四百三十九件（五百十点）の古文書を読み解いてわかりやすくした。

これは同町内の皆さんに、身近な先人の歴史に触れ、貴重な宝物を後世に語り継いでほしいと企画されたもの。

『御舎利町』という一風変わった町名の由来が気になった、故・岡春子さんが、古老から聞き伝えられてきた『町内には釈迦堂があったということが分かる古文書はないものか?』と調べられ、見つけたのが昭和六十三年のこと。この後「いつか整理されたらいいな」という思いが今回叶った。

約三十人の調査者によって読み解かれた古文書の成果発表がこのほど行われ、代表して七人が担当した古文書の中から、気になったものや面白いものを、一人約十分ほどにまとめて披露した。

読み解いた古文書の内容を説明する参加者

西村泰郎さんは、明治時代にも三陸の大津波があり、その義援金を贈った『領収書』に書かれていた事柄、いつ、誰が、誰になどを説明した。また御舎利町には借家が多かったことがわかる『借家請状之事』という記録や決め事が書かれたものがあり、その決め事には今では考えられない、借家年限を定めているが、家主が必要な時には年限中であっても明け渡すとあり、皆驚いていた。借家証文は江戸時代だけでも十五通あり、これと同様に、転出届もたくさん残っていることがわかり、今は役場がしている仕事も当時は区長がしていたこともわかった。御舎利町（当時は上大窪裏と言った）は古くからかなりの住人の出入りがあった町だったと言える。

旭薙江美さんは『儀定書附の事』主に北山王祭について書かれた古文書を解読。当時ほいのぼりの参詣の節順番、下向の節順番が決まっておらず、下向の時に論争が起こりそれ以降順番が決められ、決めた順番について各町の町年寄や町代が連印したことがわかった。「行きも帰りも越川町が一番で、連印も二名がしていることから、力を持っていたのではないかと想像する」と話した。

岸和田育三さんは、明治二十八年七月十四日付『滋賀県論示第四号』の古文書を解読。当時の滋賀県知事大越亨氏が県内全域に通達された重大文書で、内容はこの年の初夏に、京都・大阪で虎列刺（コレラ）患者が発生し滋賀県も警戒が必要ということで、その詳細が書かれていた。「くしくもコロナ禍で大変な状態の時に目を通させてもらい、当時の日野町での被害はどうだったか気になるところ」と話した。

音羽智之さんは、岸和田さんと同時期の『東浅井・伊香二郡、水害義損金依頼』の古文書を解読。日野町役場及び第拾貳区長代理者瀧井政助氏より、上大窪裏町代町田庄治郎氏へ宛てたもの。具体的な数字は何も書かれていなかったそう。琵琶湖にも津波がおこることも話した。

臼井由紀子さんは『帳簿類全十五点』の解読。木箱に収納されていた帳簿の通し番号が種類や年代が順不同だったため、わかりやすく種類別・年代別に整理した。「金銭出納簿」三冊は大正十三年から、すべて筆書きで縦書き、漢字が使われていた。昭和二十八年からの冊子の途中から横書きになっていた。「記録帳」は二冊、個人の日記帳または備忘録のような感じで役員名簿やその日に起きたこと、町内の行事等を詳細丁寧に記録している。「集金帳」は二冊、御舎利町の会計簿。「通知簿・披露簿」は八冊、町内の人の出入りについてこと細かく書かれ、その披露として一定の金額を町内に収めている記録。「私の地域にはない風習で驚き、この風習が今も残っていることに更にびっくりしました」と話した。

岡井健司さん（生涯学習課）は「木箱に入れて回覧することは、ポストに入らないので手渡しすることが大事ということ。時代の流れとともに止めていく町もあるが、何のためにやっていたか考えてほしい」と話した。

旭英樹さんは『御触書の写し』について解読。厚みのある古文書のため、言葉を探っていきながら整理し、どのような人の名前が出ているかを見ていった。御舎利町の事はあまり載っておらず、明治元年に天皇が京都から東京に移り、新政府になった様子や、重要と思われる「貨幣釣合」「切支丹」「今般御東巡」についての説明があった。

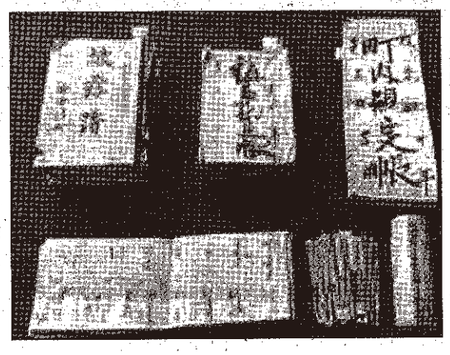
木瀬昭子さんは『御舎利町古文書～現代と比較しやすい近代のもの～』明治三十一年から昭和十五年までのもの（実際は昭和三十三年までの記事がある）を解読。祭事については集金内容がほとんどで、その中の『万控帳』の中に挟み込み文書を中心に見てみると、祭りについての詳細が書いてあり、お祭りに着ていた服装が「白丁渡御」から「揃い看板にて惣舁き」になったり、その時の人数や日給など。神輿番について警固や役舁きが抽選だったことなど、襦袢・手拭の値段が書かれていた。「今と比べると面白いなと思い見ていた」と話した。

高井儀浩さんは「昔は目まぐるしく領主が変わっていたので、記録を残しておかないと自分たちの権利がなくなってしまうので、細かく記録をとっておく事が大事。また曳山に関する記録がものすごく細かいことから、記録の大切さを日野の人は意識していることがわかった」と感想を述べた。

西村さんは「日野の大火で大火以前の記録がほとんどないので、もしそれがあったらもっとたくさんの古文書があったのでは」と話した。

岡井さんは「町の役を決めるのにくじ引きで決める。役が当たったら字を書かないといけない。皆字を書いたり、記録を作る能力があった。それが日野のすごいところ」とまとめた。

尾崎吉晴さん（御舎利町町代）は「知らない事がたくさんあるので古文書の内容について聞けるのが楽しみだった。昔の事がわかって良い機会でした」と話してくれた。【小川】



解読された古文書の一部

滋賀農業公園ブルーメの丘

『じゃぶじゃぶ池』オープン！

「犬専用」のプールも!!

新しくオープンした『じゃぶじゃぶ池』

滋賀農業公園ブルーメの丘の『じゃぶじゃぶ池』が七月からリニューアルオープンし、県内外からたくさんの家族連れで賑わっている。この池の水深は約十㎝。以前の同池は『犬専用』となり、場所を温室の裏側の芝生エリアに新設し約七倍（七百平方メートル）の広さとなった。八月三十一日まで毎日開催される。

また、バブルバズーカーで泡パーティーと題し、毎週土・日・祝日は十一時～と十四時～の二回、平日は十四時～の一回、植物性界面活性剤（アロエ成分）の身体に優しい泡が噴射される（約十分～十五分間）。

シャワー室も用意されており、泡まみれで遊んだ後はシャワーで洗い流せる（泡のついたまま池には入らないこと）。

毎週日曜日十三時からは『夏に雪が降る!?ヒンヤリ降雪注意報!』と題し、降雪確率一〇〇%の夏の雪でヒンヤリ体験ができる。

県外から訪れていた家族は「小さな子どもも安心して遊べるので楽しいです」。またドッグプールを利用していた家族は「なかなかこのような場所はないので、このプールがあるから楽しみに来ています」など、新しい施設を楽しんでいた。

なお、じゃぶじゃぶ池もドッグプールも夏季限定なので、この夏は涼を感じにブルーメの丘へぜひ！【小川】

泡パーティーを楽しむ子どもたち

赤ちゃん

（住所、保護者名、男女、名前、誕生日の順）

中山　テシマ　カルラ（男児）エンピケ　7／18

おくやみ

（住所、死亡者の氏名、年齢、死亡日の順）

中在寺　星田　章夫（八十六歳）7／27

鎌掛　瀬川　昇（八十六歳）7／27